



住吉教会 2012年度テーマ

「殉教者の霊性を生きる」

—信仰刷新の年—

お告げのマリア

赤波江 豊 神父

神のお告げの祭日は本来3月25日です。ただし典礼上聖週間や復活の主日及び復活の8日間と重なる場合にはそれらが優先しますので、今年のお告げの祭日は4月8日に祝います。マリアはまだ結婚していなかったにもかかわらず、主の天使から聖霊によって救い主を身ごもったことを告げられました。マリアの前には突然恐ろしい状況が展開しました。当時結婚していない女性が妊娠することは姦淫の罪と考えられ、死罪の可能性さえあったのです。にもかかわらずマリアは「私は主のはしためです。お言葉どおりこの身になりますように」と言って神の導きに自らを委ねました。「お言葉どおりこの身になりますように」という聖書の言葉の本当の意味は「神様から言われたから仕方ありません」というような消極的なものではなく、「神様が言われるのならぜひそうなってください」という積極的な意味でマリアは全身全霊をあげて神の導きに従ったのでした。このマリアの応答はまさにイスラエルの民が唱え続けてきた「アーメン」でした。「アーメン」はヘブライ語で「然り」「まさにそうです」「そうなりますように」などの意味を含んだ創造主に対する絶対的な信仰を表す言葉です。マリアの人生に対する姿勢はいつもこの「アーメン」でした。即ちマリアは何事においても人生を肯定しつづけました。子どもの名前がイエスなら、マリアの人生に対する姿勢も英語のイエス（はい、そうです）でした。マリアは人生に「アーメン」即ちイエスと言いつづけました。あつてはならないようなつらい出来事に直面しても、それをしっかり受け入れそこに人生の意味を見出しました。私たちもマリアのように人生にイエスと言いつづけなければなりません。間違っても自分の人生を否定してはいけません。人生を否定することは、自分自身を否定することです。困難に直面したとき、それを嘆いたり、恨んだりせず、そこからこそ人生の生きるエネルギーを見出しましょう。要は人生何事も良く解釈して、プラス志向で行きましょうということです。

教皇ベネディクト16世は2月末日をもって退位され、今月中には新しい教皇が誕生することでしょう。また新しい時代が始まります。私たちも新しい教皇とともに人生にイエスと言いつづけましょう。

教会維持費について

いつも教会維持費へのご協力有難うございます。教会維持費制度は日本の教会固有の信徒の奉仕です。対象は成人以上で収入のある方です。不況等で困難な方もおられるとは思いますが、教会共同体を支え育てるため可能な限りのご協力をお願いいたします。 神に感謝 (赤波江 豊神父)

聖週間について

典礼チーム

今年も四旬節の半ばになり、まもなくわたしたちは1年でもっとも大切な、ご復活の日を迎えます。その直前の聖週間は次のような日程になります。

(1) 3月24日(日) 受難の主日〔枝の主日〕 9時半

この日は主キリストのエルサレム入城と受難という、二つの出来事を記念します。わたしたちはシュロの枝を持って聖堂の入口に集まり、枝の祝福を受けた後福音の朗読を聞いて、司祭と奉仕者に続いて聖堂に入ります。ミサの中では、キリスト・語り手・群衆などに役割を分担して、キリストの受難が朗読されます。今年はおC年にあたるためルカ福音書から読まれます。

(2) 3月28日(木) 聖木曜日 19時 主の晩さんの夕べのミサ

キリストが聖体を制定し、ご自分の記念として行うように命じた“最後の晩さん”を記念します。またキリストが弟子の足を洗った出来事にならって、司祭が数人の信者の足を洗う洗足式もおこなわれます。拝領祈願の後、御聖体は別の安置所に移されます。祭壇上のはすべて取り除かれ、キリストの受難と死が始まったことを表します。わたしたちは仮安置所の御聖体の前で祈ります。

(3) 3月29日(金) 聖金曜日 19時 主の受難

この日はキリストの受難と死の意義を思い起こして断食し、また救いへの過越の途上なのでミサはありません。聖堂に集まって、「言葉の典礼」で役割を分担したヨハネによる受難の朗読を聞き、盛式共同祈願ののち「十字架の礼拝」がおこなわれ、「交わりの儀」の中であらかじめ聖別された御聖体をいただきます。

(4) 3月30日(土) 復活徹夜祭 19時 復活の聖なる徹夜祭

本来は夜を徹してキリストの復活を記念する典礼でしたが、住吉教会では夜の7時から行われています。典礼は次の「光の祭儀」「言葉の典礼」「洗礼と堅信」「感謝の典礼」の4部で構成されています。

- ①「光の祭儀」 聖堂の外で祝福された火が復活のろうそくにともされ、皆で「キリストの光」・「神に感謝」と歌いながら、列になって真っ暗な聖堂に入ります。その後復活のろうそくから各々のろうそくに火がともされ、“復活賛歌”が歌われます。
- ②「言葉の典礼」 照明をつけろうそくを消して着席した後、旧約聖書が読まれます。全部で七つありますが、当教会では第1朗読(創世記)、第3朗読(出エジプト記)、第7朗読(エゼキエルの預言)が読まれ、それぞれ答唱詩編と祈願がつきます。その後祭壇のろうそくに火がともされ、“栄光の賛歌”を歌い、“使徒パウロのローマの教会への手紙”、アレルヤ唱、福音朗読と続きます。
- ③「洗礼と堅信」 この徹夜祭は初代より洗礼式にもっともふさわしい時と考えられてきました。住吉教会でもこの日に洗礼と堅信を受け、初めてご聖体をいただく方を迎えます。またすでに信者であるわたしたちも、各自の洗礼を思い起こし、神の子として生きる決意を新たにします。
- ④「感謝の典礼」 ここからはいつもの主日のミサと同じように行われます。

(5) 3月31日(日) 9時半 復活の主日〔日中のミサ〕

この日はアレルヤ唱の前に“復活の続唱”を歌います。また初聖体のお恵みをいただく方もおられますので、信者たち皆で喜びを分かち合います。

社会活動チーム、財務チームからのお知らせ

今年も2月13日の灰の水曜日から四旬節に入りました。特に「信仰年」を過ごす今年、この期間を祈りと愛の業に取り組む機会とし、私たちの教区全体が、必要な回心の恵みにあずかることが出来ますようにと池長大司教様は望んでおられます。

四旬節の精神をより良く生かす手立てとして、日本の教会は毎年、「**四旬節愛の献金**」を呼び掛けています。

皆様のトレイに**緑色の献金袋**を入れていますので、献金にご協力下さいます

ようお願い致します。ミサの中でまわって来る献金籠に入れていただければよろしいかと思えます。

また、カリタスジャパンは「愛の献金趣意書」を含む小冊子『ひびき』を配布しています。東日本大震災被災地の現状にもとづいた内容で編集されており、祈りのためのよい手引きとなることでしょう。回心への招きのひとつとしてご利用ください。

なお、この献金は大阪教区経由でカリタスジャパンに送金され、国内、海外の援助活動事業に使われます。

教会施設維持管理費について

—2013年4月から—

2006年6月の献堂から早くも6年半が経過しました。一般的に建物は10年を目途に大規模な補修（メンテナンス）を行います。

住吉教会では2016年頃に屋上防水工事、外壁の塗装工事、給湯器や空調機（GHP）の交換などを行う予定です。献堂当時の長期メンテナンス計画では築10年補修費用を想定していました。

現在住吉教会は財政的には十分賄えますが、今後少子高齢化がますます加速していくことを考えますと将来の財政状況はだんだんと厳しくなっていくものと思いますので、次世代の事も考えて今のうちに大規模補修費用の積み立てを始めたいと思います。2016年頃の大規模補修工事の後も築20年のメンテナンスも視野に入れながら無理をせず息長く積み立てをしていきたいと思えます。

1月20日の評議会での決議に基づいて「一積立金— 教会施設維持管理費」の納入封筒を作り上記の趣旨に沿った積み立てを4月から始めることにしました。

今のところ費用見積もりなどはまだ出来ていませんが、資金作りには信徒一人ひとり（子供たちも中学生・高校生・大学生も社会人も高齢者もみんな）がそれぞれの出来る範囲の中で、それぞれの方法で苦しみと痛みを分かち合いながら **「みんなで、主キリストがともにおられるみんなの教会を守っていくのだ。」** と力を合わせていくことが大事なことでありますのでご協力のほどよろしくお願い致します。

カトリック住吉教会 評議会